大阪城

2021/4/1(木) 14:54号

全港湾西成分会

ゴムイフ 6647-4947

先日、新型コロナウイルスが、細胞を食い殺し細胞を消し去る姿をテレビで流していた。光学顕微鏡を最大に拡大し、世界で始めての生きて動く映像だということで、ウイルスの専門家や医者たちも、びっくりしていた。

人間の体は、頭の毛から足のつま先まで、約60兆ぐらいの細胞でできているが、コロナウイルスに食い殺され解体されていく映像はすさまじいものだ。

そのコロナウイルスが大阪で大爆発してきている。東京よりひどくなってきて、最近は400人以上だという。

地域でも、労働者が皆んな話しているが、先週3/26(金)より前、10日間ほどに、センター横のシェルターで3人の感染者が出たといっている。そのため、特掃でシェルター清掃にいっていたのが、中止になったと特掃の労働者たちが言っていた。

この間、シェルターの改善要求として、大阪市に対し、冷暖房をつけろとか、上下2段ベッドに二人寝るのはやめて一人にせよ、常連の人が多いので、ベッドは固定せよとか要求して、改善されてはきている。しかし、今回のコロナウイルスは、大阪市自身が市の責任を明確にし、感染の状況報告、感染対策、方針など利用者はじめ労働者に速く知らせるべきだっただろう。

「まん延防止等重点措置」

大阪府は、新型コロナウイルスの感染の再拡大を受けて、31日夕方に対策本部会議を開いて、緊急事態宣言が出されていなくても集中的な対策を可能にする「まん延防止等重点措置」の適用を国に要請する。重点措置が適用された場合は、対象地域の飲食店などに対し、営業時間を夜8時までに短縮するよう要請する方向で最終調整しています。

大阪府では30日、東京都を上回る432人の感染が確認されるなど感染が再拡大しています。　ＮＨＫニュース

旧センターの閉鎖から丸2年になります。現在の建設日雇労働市場の実情は惨憺たる状況で昔年の活況のある面影はどこにも見られぬ痛ましい限りですが、その中でも、「その日の生活の糧」を求めて仕事に集う仲間の努力で、悪条件の中でも「寄り場の機能」が維持されています。

新型コロナのパンデミクスとの闘いも長期化してなかなか先が見えませんが、ウイルスの変異にも負けない取り組みを！

今日から新年度　センター閉鎖から丸2年

日雇建設労働市場の活性化のために労働者同士の団結を！